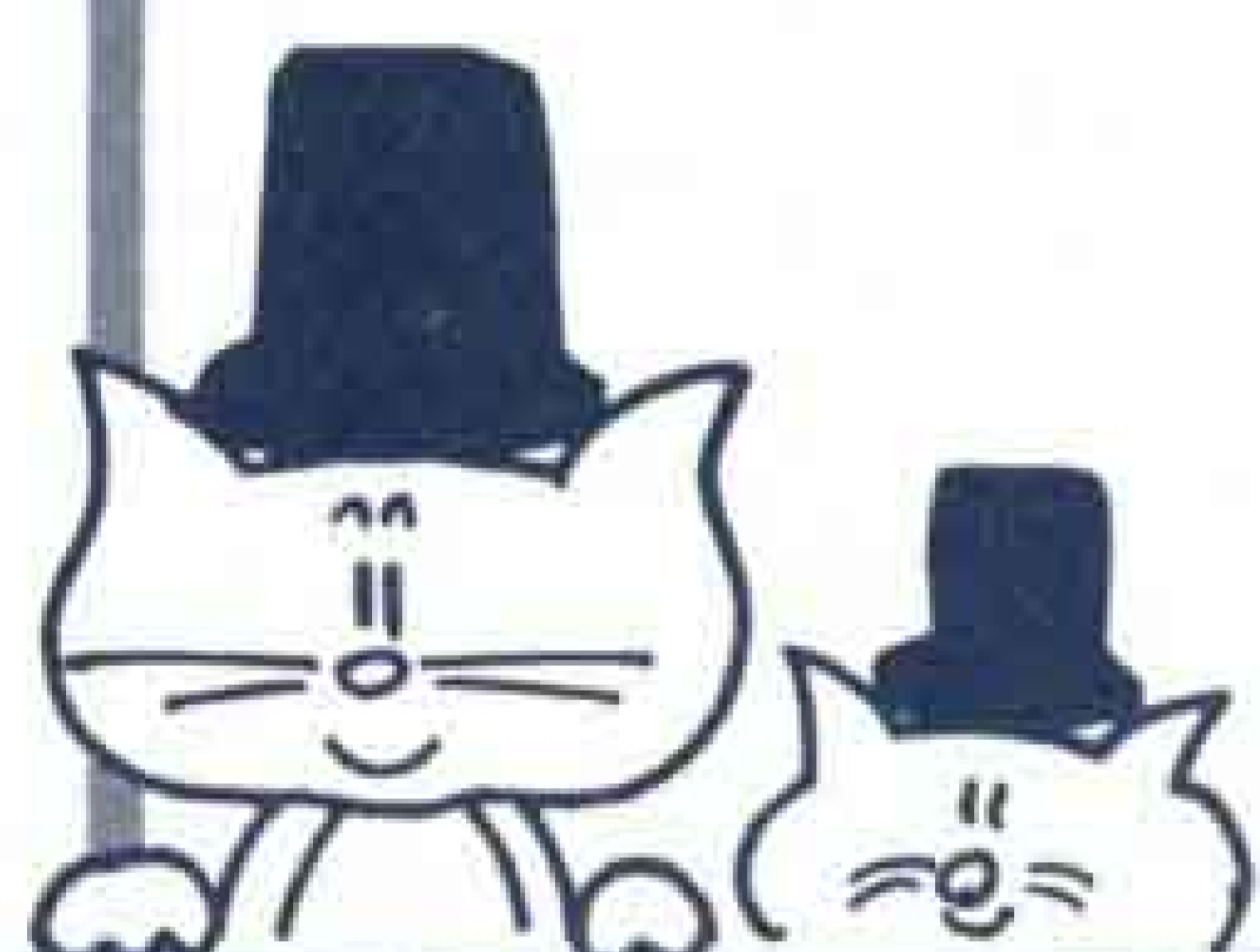
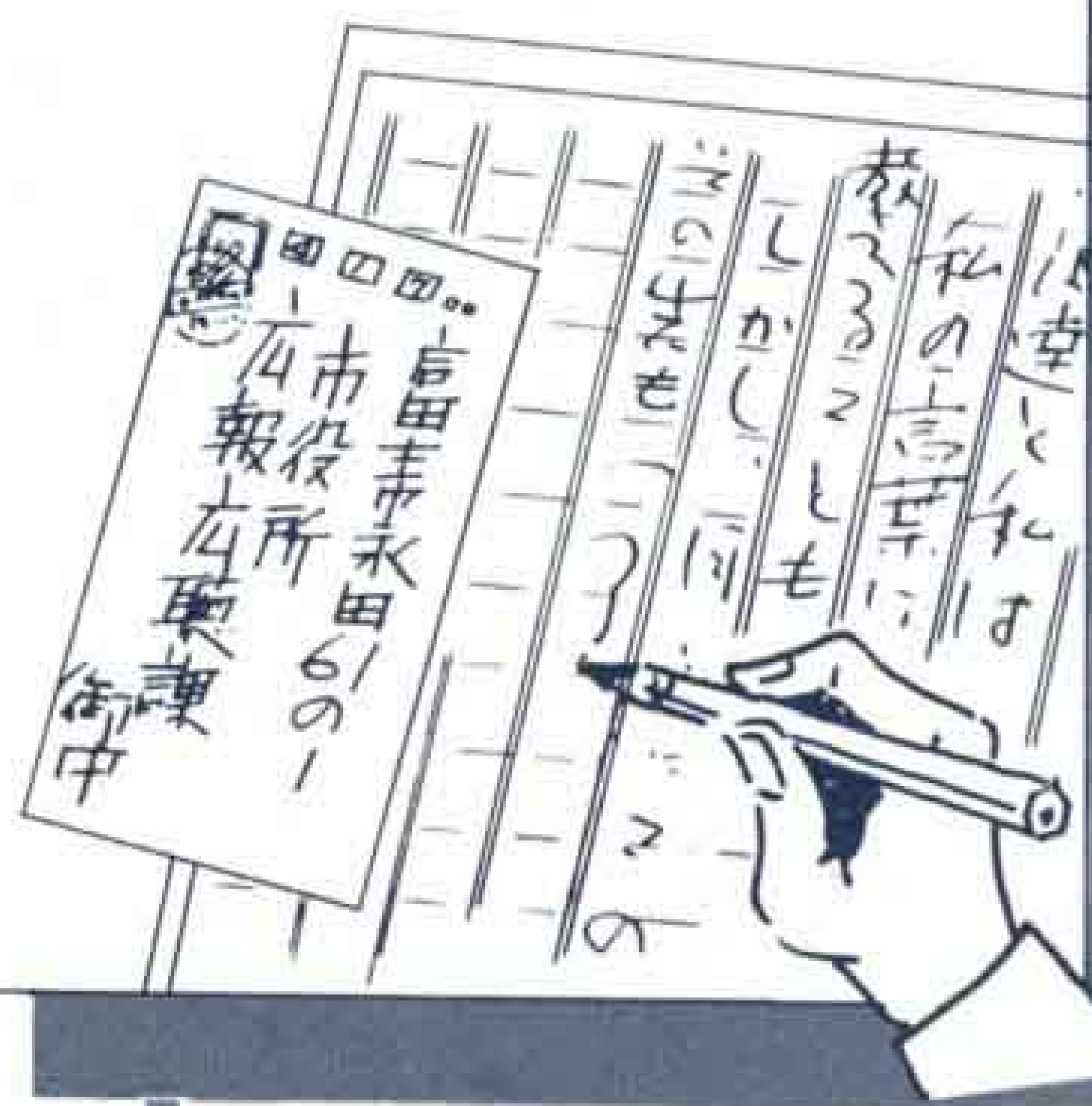


今月のテーマ

お便り  
コーナー



あなたのお便りを  
お寄せください

このコーナーは、皆さんの意見交換の場とさせていただきます。テーマに基づいた、あなたの意見や提言などを、どしどしお寄せください。

お便りをお待ちしています。

◇応募される人は 原稿用紙へ300字程度にお書きください。趣旨を変えないで原稿を直すことがあります。住所・氏名・年齢・連絡先を忘れずにお書きください。

◇送り先は 〒417 市内永田61-1 市役所広報広聴課

原稿締切日は、毎月20日です。

近所づきあい

最近、隣近所のつながりが薄らいでいると言われてい  
ます。遠くの親戚より近くの他人ということわざもあり  
ます。プライバシーとのかかわりもあり、どこまで立ち  
入ってよいか難しい問題です。今月は、近所づきあい  
についてのお便りをいただきました。

宝物を得て

藤島たかねさん  
松岡(38歳)



先日のことです。成人病検診でよ  
くない結果がでた事と、主人の留守  
とが重なり、すっかり落ちこんでし

まった時がありました。

その時、私は知らぬ間に受話器を  
はずし、友達へダイヤルをまわし始  
めていました。彼女はいつもと違う  
私に気づき「何があったの?」とや  
さしく聞いてくれました。

翌朝、やっとの思いで子どもを学  
校に送り出した直後、彼女は化粧も  
せず飛んできてくれました。

私は彼女のやさしさと、自分自身  
の不安とが入りまじり泣きくずれて  
しまいました。でもこの時の涙は不  
安もありましたが、心のやさしさに  
ふれた感謝の涙だったんです。

そして、この時程、「近所づきあい」  
を通り越した友達としてのあたたか  
さを知り、本当に大切な「宝物」を  
得た思いでした。こんなすばらしい  
心のつながりをいつまでも持ち続け  
助け合って行きたいと思います。

テーマ

■5月は「交通マナーを考える」

新学期が始まり、新入学(園)児も  
そろそろ学校になれたころ、と同時  
に恐ろしいのが交通事故。

運転者も、歩行者も交通ルールを  
守る事が一番大切です。

しかし、無謀運転、自転車の横列  
走行、歩行者のとび出しなど基本的  
なマナーが欠けている場合も多くみ  
うけられます。さてあなたの交通マ  
ナーについての考えはいかが……。

■6月は「ペットの飼い方について」

犬や猫をはじめ、動物をかわいが  
る事は、生命の尊さを知り、思いや  
りを養うことに役立ちます。

しかし、同時に生き物を飼う以上  
飼い主としての責任も生まれます。

犬の放し飼い、排泄物の不始末、飼  
いすてなど無責任な飼い方も目につ  
きます。

6月は、ペットの飼い方について  
あなたの考えをお聞かせください。

# 何げない一言から

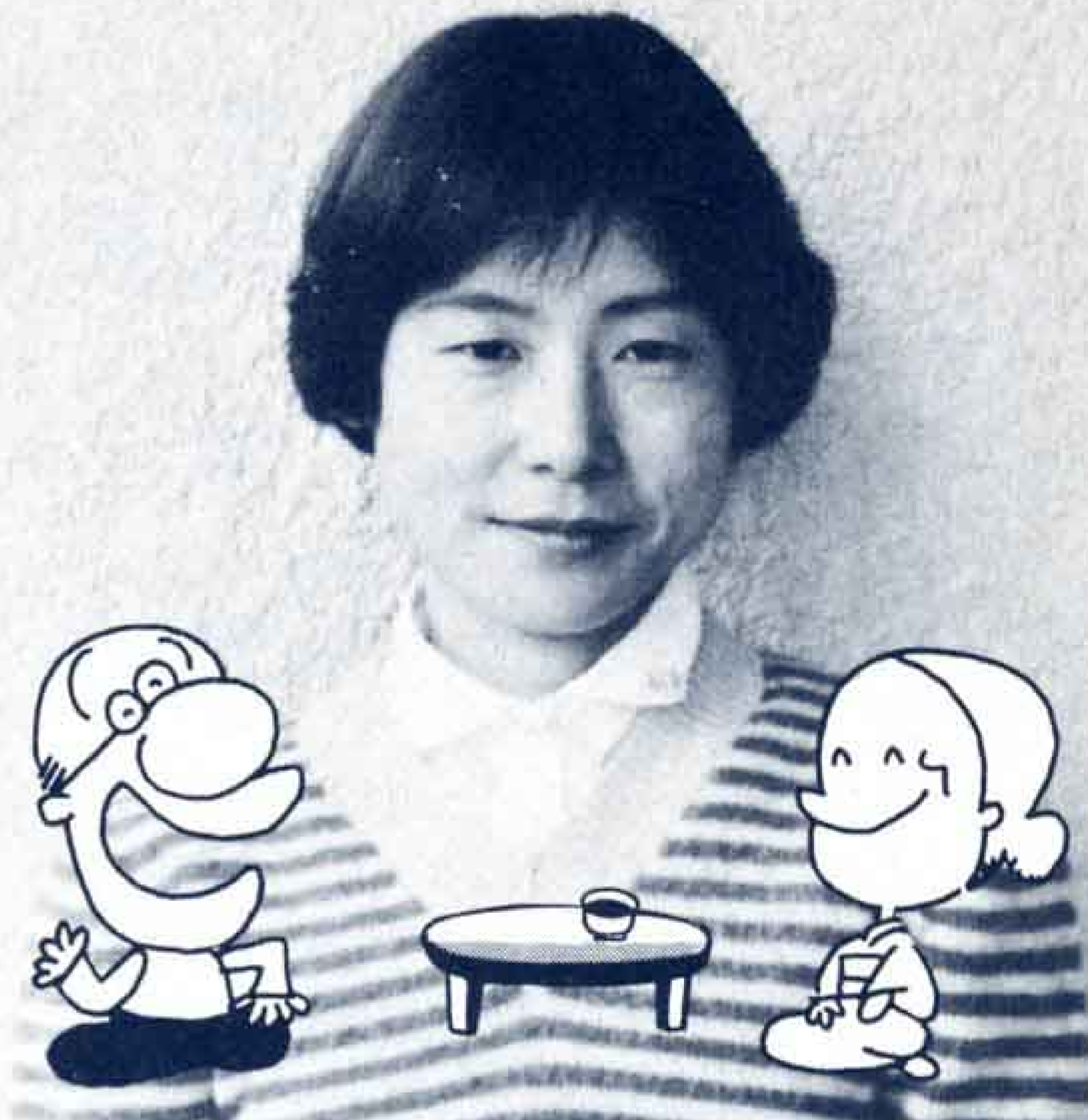
山本百合子さん  
広見新町(53歳)



私は公民館で開催しているある教室に参加していますが、はなしをしているうちに「あら、お宅はうちの近所じゃない」なんてことがありました。

近所の奥さんと趣味が同じだったとわかると、よけいに親密感がわきます。

昔と違って近所づきあいが薄らいでいると言われていた今の世の中で、近所の子どもをいたずらなど、堂々としかってやれる社会になってほしいものです。



「お年寄りには知恵袋」と佐野さん

## 世代を越えたつきあいを

佐野千賀子さん  
中里(33歳)

今は、中里に住んでいますが、原田に住んでいた時のことです。

同年齢の子どもを持つご近所の遠藤さん一家と知りあい大変お世話になりました。ある時、仕事が忙しく子どもを幼稚園へむかへに行く時間を忘れ、あわてて行ってみると、遠藤さんが一緒に連れ帰って家で遊ばせていただいた事もありました。遠

藤さん一家のおかげで近所づきあいの大切さを知った私は、天気の良い日は外へ出て近所の方と話をするように心がけました。

特にお年寄りとの話は、お年寄りの経験とか、いろいろな知恵袋に接することができました。さつぱつとした世の中で、世代を問わずつきあいがあれば昔話、風習、慣習などを知り得、人情も生まれて来るのではないのでしょうか。現在の場所へ移り住みまだ一ヵ月、本当のおつきあいはこれからだと思っています。

近所づきあいの第一歩は、隣の家の庭を見て「きれいな花ですね」と何げない一言をかける事から始まるのではないのでしょうか。

この簡単な一言が世間話、そしてちょっとした相談事に発展し、結びつきを強くすると思います。

また、地域の公民館で開催するいろいろな趣味のサークルに参加することも一つの方法です。



ボランティアとして、目の不自由な人に声のたよりをとどけている。

くまがいよしこ  
熊谷良子さん

若松町(34歳)

私の声は鼻にぬけて聞きにくく、しゃべりかたもかたいです。自分で聞いてみるとよくわかりますね…。と話す口調は、言葉とは逆に歯切れがよくおだやかな感じを受けました。ボランティアグループ「山びこ」に所属、目の不自由な人に声のたよりを送り始めて七年になるといふ熊谷さんを自宅にたずねました。

目の不自由な人は、耳がたよりなので、聞きとり易いように、また、人の名前や地名は念には念を入れ、確認してから録音します。アフセンにも気をつけますが、私達のグループは、県外出身者も多くそれぞれ多少のなまりがあります。

でも、少しのなまりは、変化があつて聞く人も楽しいのではと思つています。広報ふじを吹き込んでいるので市政もちよつと明るくなりました。これまでやってこれたのはグループの皆さんと主人の理解があつたからです。とご主人おもしろい熊谷さん。二人の子どもは母親でもあります。